

令和4年度（2022年度）参加者の感想

（歯科衛生士）

自身の職能団体の災害研修を受講しているだけであると、他の支援団体の活動内容を深く知りえることは難しいと感じていました。例えば、今回の研修でのEMISやJ-SPEED+、情報管理です。多職種の活動や視点を知っていて災害支援を行うことは、連携をするうえで重要だと感じました。また、自身の職能の活動にも活かすことができると考えます。また避難所アセスメントや避難所運営については、座学で理解したつもりであっても実働してみると活かすことは難しいということを痛感することができました。座学、実働訓練、総評という流れの中で、できたこと、できなかったことを理解し課題を見つけることができました。そして、わたしにとって今回の研修での最大のメリットは多職種との関わりです。同じ課題に向き合い、各職種の視点で意見を交換してまとめる実習は大変学びが多かったです。顔の見える関係の構築の初めの一歩になると感じました。

（看護師）

熊本地震の際に医療者として対応をされた方々や地域の方のお話を聞き、被害があった場所を見て、被災状況をより具体的に知ることが出来た。熊本地震で失ったもの、学んだことを後世や県外の人に伝えようとする地域の方の姿を見て、地域の復興と向き合ってきた人々の強さや努力を感じた。

研修では自分たちで考えて課題解決をしていく内容も多く、多職種で構成されたメンバーとのグループワークは、沢山の発見や気づきがあった。また、自分たちだけでは判断に困ることも、実際に災害対応された方々の実践に基づく助言により、更に充実した意見交換が出来た。

2日間の短い時間ではあったが、スタッフや講師の方、参加者、地域の方々の優しさに触れ、熊本の方々の温かさや地域の魅力を知ることが出来た。研修の中で、災害時に顔の見える関係が大切というお話があったが、私自身も災害時に医療者として支援ができるように今後も災害医療の学びを深めていきたい。

（看護師）

初めて、この研修に参加しました。実際に道路を通ったり、テレビで見ることがありましたが、こんなに近くで現状を見たのは初めてでした。そして、写真や解説まで、とても詳しくお話して頂き、自然災害の厳しさを再実感する機会となりました。お話の中で、「災害は繰り返されていることが分かった」と話されていたことがとても印象的で、それに逆らえないものならば、逆らうのではなく、災害から復興しやすくするような環境を作っていくことが必要になってくることも一つであることを学ばせてもらいました。

また、今回の研修を通して、いろんな職種がいることで色々な視点が入ることがどれだけの力を生み出す、それを再認識する機会となりました。専門職であることは一つの力にはなりますが、視点が固定される傾向があり、支援の妨げの原因ともなります。しかし、他の職種に応じては、それは緊急度合いが変化してくることを改めて実感しました。今回の研修を通して、学ばせてもらったことを一人でも多くの災害に見舞われた人に手助けできるように今後も頑張っていきたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

(歯科衛生士)

地震の一週間前に通っていた橋が崩れ、宿泊したところのある火の鳥温泉の被害、普通に使用していた体育館、またあの地震の揺れ、音を思い出すから「嫌だな」と思っていました。今回参加した際は意外と俯瞰して見れていた自分に気づきました。あの時の状態をイメージしながら実践研修はリアルに想定し向き合うことができました。(講師の)先生はあの状態の中トップに立ち、避難所運営に携わり豪雨災害時にも活躍、尊敬いたしました。スタッフの協力、役割分担の重要性の大切さを感じました。「知っている人の顔」「人との繋がり」見えない安心感が心のお守りになるのだと感じました。講義の内容もまだなれない言葉、知らない言葉がたくさんあり理解に苦しみますが、看護師の方々の知識、危険予知の広さに、いい刺激をいただきました。「使える人材」に成長したいです。

(看護師)

研修に参加し、災害の基礎知識から病院に勤務していると体験できない避難所設営迄幅広く知識を得、さらに体験することができました。どんな過酷な状況でも、この限りある資源の中で何ができるか、どうすれば有効に活用できるかを、一人ではなくチームでアセスメントする大切さを学びました。チームで考えることで、同じ情報であってもより深く情報アセスメントを行うことができることも改めて感じました。さらに研修生も含め、著名な先生方と顔の見える関係が築けたことがとてもよかったです。

体験できたことで特によかったことは、段ボールベッドを実際に組み立て、横になり、どのような状況で被災者が長い避難生活を送っているのかを感じることができました。今後尊厳ある生活を確保するために、よりよい避難所設営を考える場合、避難所情報アセスメントを鳥の目、虫の目、魚の目で考えられるようにしていきたいと思いました。

(医師)

一年半前の研修に続いての受講で、失礼致しました。本研修を企画して下さった皆様に感謝とお礼を申し上げたいと存じます。本当にありがとうございました。

前回と比べて、内容が洗練されて時間も短縮され、土日の二日間で受講出来ることが出来る様になっておりました。しかしウォークラリーが新たに追加され、実際の被災地を、新旧の状況を歩きながら実感・聴講出来ることは、本当に新鮮でした。あれから数年がたち、倒

壊した建物がほとんど無くなった今でも、旧道沿いの断層部分（断崖）は徐々に川へ崩れ落ちてきていることなど、あの地震は“まだ過去ではない”ことを改めて感じました。

私の実家のある益城町も、当初と比べると住宅街はかなり復旧しました。しかし町の中央を通る道路（熊本高森線）脇は、復旧の実感が全くわかりません。国道57号線、自動車道トンネル、新阿蘇大橋、JR豊肥線そして南鉄の再開と、順調に進む南阿蘇の更なる復興を祈念いたします。

（事務職）

避難所調査、情報収集、避難所ラピッドアセスメントシート記載、救護所対応・災害診療記録の記載、J-SPEED入力、避難所設営、EMIS等の情報分析と資料作成といった演習は一部オンラインでも行ったことがあるが対面で各種デバイスなど用いて行ったので非常に実践的で表現としてふさわしくないかもしれませんが単純に面白かったと思います。今回のような内容を当院のリハや事務の若手～中堅職員に受講させたいと思いました。反面そのような実践的な研修であることが案内のリーフレットでは伝わりづらかったのではないかと思います。

（歯科技工士）

実際に、段ボールベットを組み立てたりどういう風に配置するとか皆で考えたり。実際の現場をみながら、貴重なお話を聞かせていただき情報分析、資料作成をチームで色々話し合いながら命を守るには何が今必要かを凄く沢山初めて考えました。すごく貴重な時間を体験する事ができました。一人ではなくチームで考え取り組んでみて、ものすごく刺激を受けました。講師の先生方や、案内して下さった地域の方、バスの運転手さん、準備やお世話をしてくださったスタッフの方々本当に忙しい中ありがとうございました。